

東京の商店街「戸越銀座」を歩く

商店街を歩くと、その地域の個性と魅力、活力といったものを感じることができる。商店街の衰退が叫ばれて久しいが、旅行の際はなるべく商店街を訪ねるようにしている。商店街は地域社会を支える基盤であり、「観光まちづくり」「街なか観光」の重要な対象といえよう。やはり元気な商店街がいい。

『東京人』の「商店街の歩き方」という特集に紹介されていた戸越銀座は、なんと 1.6 キロと直線としては日本一の長さを誇る、品川区の賑わいのある商店街だ。終点が見えないほど、とにかく長い商店街であり、平日の 16 時頃なの



に人通りの多さに驚いた。平日の 15~18 時、日曜と祝日の 14~19 時は車が乗り入れられない。それほど広くない通りだが、車を気にせず、ゆったりと買い物ができる。



いろいろな店があって、とにかく面白い。美味しい焼き鳥を焼いている店があり、愛想よさそうなご主人に話しかけて、出来立ての焼き鳥を 2 本注文した。



焼き鳥を食べながら店の現状と戦略を聞くと、近くのスーパーにないもの、手作りで勝負しているという。

「差別化」戦略であり、おでんの具など手作りの素材で勝負しているという。こうした工夫をこらしたお店が多く並んでおり、商店街としての活気をもたらしているのであろう。「とごしぎんざ」という大きな案内に、「好きですこの街」と書かれていたが、歩いてみて納得できる感じがした。

(2008 年 2 月 26 日 記)